



復刊第111号
題字 吉岡弥生

総会を終えて

副会長 佐藤千代子

総会が終わると雨が近くなる。時に翳々と緑の木々を優しく包むかと思つと、突如、山を崩す激雨となる。それでも梅雨の到来は日本人に、自然のリズムを想い出させ情緒的な安堵感をもたらします。雨に煙る紫陽花を眺め、自然の前には無力な人間に思ひ至るかと思つと、次の瞬間には氣象衛星ひまわりから送られてくる雲の様子に、ひとかどの分析をして天気予報を試みたりするのも、四季のうつろいの豊かな日本なればこそ！ とつくづく思うこの頃です。

大阪総会は素晴らしい五月晴でした。評議員会会場のMIDタワー、総会のMIDシアター、ともに新しい、設備も充実しているこれらのビルの窓からは、大阪城公園が眼下に広がる落ち着いた雰囲気、この会場を確保された地元の会員皆様のご配慮のほどもしのばれました。

総会には出席者二百二十八名、議長団に推薦されましたお三方の威厳と見識に満ちた議事進行でスムーズに終了いたしました。会場には終始、会の前進へ向けての意欲と熱意にみちた緊張感が漲っていました。大阪支部の大原、野呂両理事を中核に支部皆様のご協力により、今回の総会を契機として支部会員が一挙に百二十名近く新加入下さいましたこと、そして一丸となつての総会設営に当たられましたご熱意が、この活気をもたらしましたものと感激を禁じ得ませんでした。そして懐しい広島支部の会員の方々のお顔も拝見、建設的なご提言をいただいたことも嬉しいことでした。

昨年の東京、今年の大阪と、女医会にさらなる団結と、新しい志向の気運がみちてまいりましたことを切実に肌を感じ、この機を大切にしなければならぬ!! と感謝と重大な責任を痛感した総会でした。

前日の観光にはあいにく参加させていただくことができませんでした。が、参加された方々は、異口同音に緻密に計画され、暖かいご配慮にみちたご案内を非常に喜んでいらつしやいました。

特別講演の大阪大学名誉教授、藤野恒三郎先生の「蘭学事始から細菌学事始へ」のお話は、非常に興味深く時間制限のありますことが惜しい思いで拝聴いたしました。

総会を終え、ホテルニューオータニに会場を移しての懇親会もまたこの上なく楽しいはなやいだ雰囲気でした。四国の会員のご紹介による人形浄瑠璃の人形の関節の繊細な動きは、さながら生きているものごとく情感に溢れ、伝統芸能の素晴らしさを満喫いたしました。なお医師会のバンド演奏、ピアノ演奏、コーラス……とバラエティに富んだプログラムとお心配りに、大阪支部先生方のご厚情がひしひしと胸に響きました。和やかな空気の中で会員同志の交流も深まつてまいりましたところ、東京方面からの出席者は新幹線の時刻が迫り、大阪支部の皆様への申し訳なきに断腸の思いで会場をあとにしななければならぬとなりましたことは、本当に残念でございました。

総会席上、恒例の学術研究助成金授与と、荻野吟子賞、吉岡弥生賞が授与されました。受賞者の方々とその業績については、担当者よりの

もくじ

総会を終えて……………	佐藤千代子 (1)
第三十二回定時総会特集	
会長あいさつ……………	山崎 倫子 (3)
定時評議員会・総会議事録……………	(4)
特別講演「蘭学事始」より細菌学事始へ……………	藤野恒三郎 (5)
各賞と研究助成授与者……………	
吉岡弥生賞をいただく……………	荷見ヒサ子 (7)
荻野吟子賞をいただく……………	香川 綾 (7)
学術研究助成を授与されての感想……………	平松 和子 (8)
はじめて総会に出席して……………	一戸 茂子 (8)
日本女医学会総会を大阪に迎えて……………	野呂 幸枝 (8)
奈良親光のお手伝いを了えて……………	西田 富美 (9)
第二十回国際女医学会報告……………	藤井 儔子 (11)
第二十回国際女医会議旅行に参加して……………	長田 智香 (13)
支部だより……………	
目黒支部だより……………	浜田ナミ子 (14)
吉岡弥生賞推せんについて……………	(8)
荻野吟子賞推せんについて……………	(4)
学術研究助成のご案内……………	(2)
第二十一回国際女医会議予告……………	(10)
情報コーナー……………	(14)
会員の消息……………	(6)
常任理事会議事録……………	(14)
理事会議事録……………	(15)
会員動静……………	(16)
編集後記……………	(16)

ご報告がありませんので省略いたしました。が、荻野吟子賞、香川綾先生の潑刺たるお姿を拝見いたしましたので、大先輩のご偉業もさこそと感動いたしました。吉岡弥生賞、荷見ヒサ子先生は総会後の朝日新聞「ひと」欄に

大きく紹介されました。今、高齢化社

会に問い直されている老人問題に對し、すでに二十年前から「老人の介護を老人一人ひとりの人格を大切に

このように地域医療の中においても大学の研究機構の中でも一人ひとりが着実にその責務を果たし、社会的にも評価を得ている現在、私どもには性差の意識はまったくありません。

日々の研鑽が医学の進歩につながり、ひいてはそれが良い医療に寄与する、すなわち医学の進歩につれて医療の向上にもあるべきではないでしょうか。

行政の動向について考えてみたいと思ひます。

厚生省は今年の一月十四日、それまでの医療費適正化対策本部を解散して、新しく国民医療総合対策本部を設置いたしました。

国民医療総合対策本部で検討されている内容は明確にはされていませんが、在宅医療の推進、病院・診療所の機能分化・機能連携、保険医療機関の規制強化、これには機関規制だけでなく、保険医に対する免許制、定年制、一定地域内における保険医の人員制限等が検討されているとい

われず。地域医療計画策定以降は規定外の病院、病床の増設には保険医療機関として認めない。また、診療報酬合理化の面から、標準医療の設定も現実のものとして考えられているようです。

学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請下さるようお願い申し上げます。

- 一、助成の趣旨
医学分野の発展、向上を図り、後進の研究助成を目的とする。
二、助成金額
総額一五〇万円(五、六件)
三、申込手続
(1)応募資格
入会継続三年以上経過した日本女医学会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をなうものであること)
(2)助成期間
一年を原則とする。継続を必要とする場合は改めて申請を要する。
(3)応募方法
本会所定の用紙に、黒インキで記入。一通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)
(4)申込期間
昭和六十二年十二月二十五日必着
(5)選考および発表方法
選考委員会において選考の上、昭和六十三年三月開催の日本女医学会理事會において決定し申請者宛通知する。
(6)助成金の贈呈
昭和六十三年五月開催の日本女医学会総会の席上。
(7)受賞者の本会に対する義務
昭和六十四年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。
(8)送付先
日本女医学会本部
(〒150 東京都渋谷区渋谷二一八七 電話 〇三二四九八〇五七二)

第三十二回日本女医学会定時総会特集

会長あいさつ

山崎 倫子

本日は全国各地から多数の会員をお迎えして第三十二回総会が開催されましたこと誠に同慶の至りでございます。

多くの皆様におかれましては昨日から緑の美しい古都の名跡、数々の名刺と美しいお姿を拝見され、和やかな、また満ちたりたお気持ちでご出席いただいていることと思ひます。

まず、本総会を開くに当たり格別のご尽力をいただいた大原、野呂理事をはじめ、大阪支部の皆様にお礼申し上げます。今総会を機に関西地区のみで百三十余名の新入会員をお迎えすることができましたことは殊の外嬉しく、皆様とともにお慶び致します。

貢献した部門で、社会福祉に格別のご貢献をなさってられる荷見ヒサ子先生に決定いたしました。荷見先生は昭和十七年九月に東京女子医専を卒業なさりました。早くから老人看護の重要性に着目され、昭和四十六年私財を投じて特別養護老人ホーム西山苑を創立、理事長に就任、今日に至っております。荷見先生の素晴らしい介護法はすでに何回も新聞紙上に紹介されている通り、おむつはずし、離床、痴呆性老人を一般老人と一緒に生活させる等のユニークな試みを実践され成果をあげておられることです。老人における人間としての尊厳を尊重しての介護のあり方は医師のみならず、老人福祉にたずさわるすべての者にとっても貴重な指針であります。本年六月にはさらに特別許可老人病院が竣工の予定と同っております。その他ゼロ歳児の保育等にも貢献されておられる立派な方です。

次に、荻野吟子賞は、女子栄養大学長、女子栄養短期大学長、香川栄養専門学校長、香川綾先生にお贈りすることに決定いたしました。香川先生につきましては、ことさら申し上げる必要はないかと存じますが、簡単に紹介させていただきます。

先生は大正十五年東京女子医専を卒業され、栄養問題を生涯の仕事としてお選びになり、今日まで一貫して栄養学における研究、指導、教育、啓蒙、普及活動に全精力を注いでこられました。先生の業績についてはとももすべてを申し上げる時間がございませんが、早くから健康と食、医と食のかかわりの重要性を指摘され、今日までに何万人もの女性を栄養士、栄養専門家、すなわち女性のプロフェッショナルを養成し、社会に送り出してこられました。改めてその先見の明とご努力に敬意を表するものであります。

さる四月二十五日から五月一日までイタリアのソレントで第二十回国際女医学会が開催され、日本から約七十名が参加いたしました。かえりソレントへの民謡で知られるリゾートの町ソレント。空も海も限りなく青く拡がり、日光はさんさんと輝き、樹々にはオレンジとレモンが枝もたわわに実っていました。と申しますと皆様にはその風景が浮かんでくるかと思ひますが、風光明媚さとはかく、会議そのものは、準備万端、ハード面もソフト面も最初から最後まで、イタリア流でも申すのでしようか、藤井連絡書記も私も、またご参加の皆様もまどいと疲れの多かったことでした。

新井、藤井、堀口先生お三人の発表はいずれも一段とレベルが高く、かつスライド、ビデオも極だつて鮮明で大変肩身を広くしました。次期国際会長には韓国のDr.イルオクチュンが選出されました。ここで一言説明させていただきます。このことをご紹介します。実は私理事會で次期国際会長候補にご推薦いただいております。結果はどうかあれ立候補するようになり、われわれも驚きました。しかし私個人の諸々の事情に併せ、国際的認識から、次期国際会長に就任することが、韓国のDr.イルオクチュンが選出されたこと、再投票が行なわれた結果、上位のDr.イルオクチュンが選出されたのであります。私はこのことは結果的には大変よかつたと考えます。と申しますのは、ご存知の方も多いと思ひますが、今まで何年にもわたりの会議においても私たちはなぜか話をしない、席を同じくしない、互いに避けあうといった不自然な関係が続いていたのであります。日本からの協力がなかったら当選できなかったとDr.イルオクチュン他皆は非常に感謝し、喜び、韓国女医学会のほとんどが日本語で話しかけたり、テーブルをともにしたり、スナップを振りあうなど気持のよい交

流ができ、いまだかつてなかった友好関係を持つことができたのであります。理事會および会員の皆様の私へのご後援を感謝申し上げます。私も私のとりまいた処置につきましてもお詫びとお許しをお願い申し上げます。次期です。

定時評議員会議事録

今回會議に出席して解ったことですが、WHOは毎年各国政府に対し、WHO専門委員候補者の推薦依頼を出しているそうです。しかし今まで一度も女医が推せんされた気配はないし選任されたこともありませんでした。書類が厚生省または日本医師會でどのように処理されたのか分かりませんが、今回、WHOへのMWA (国際女医會) 代表ミセス・ルース・ボナーを通して始めて日本女医會の推せんした候補者リストが選考に送られ、三名の会員と一名の非会員計四名が選任されるに至ったのです。国連婦人の十年の成果として、WHOも女医の比率を二〇%にまでしたいと考えているようです。優秀な女医がより多く国内的にも国際的にも活躍できるように女医會は陰の力になってゆかなければならないと考えます。

日時 昭和62年5月24日(日) 場所 TWIN21 MIDタワー (大阪市東区城見二一六一) 午前十一時開會 司會/三好 美春

大変長くなりましたが、ただ今から報告ならびに重要事項につきご説明申し上げますのでよろしくご審議のほどお願い申し上げます。最後に今年度も会員増強に一層努力するとともに女医會の発展に力をつけて前進して参る所存でございますのでよろしくご指導ご協力のほど、お願い申し上げます。

荻野吟子賞推せん

締め切り期日は、本年十二月二十五日、候補者の経歴、業績と推せん理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出下さい。

昭和六十二年荻野吟子賞授賞の適格者を本會理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。

定時總會議事録

日時 昭和62年5月24日(日) 場所 MIDシアター(大阪市東区城見二一六一) 午後一時十二分開會 司會/明石 み代

以上のとおり日本女医會定款第二十七條の定足数に達し總會が、成立する旨の報告あり、開會を宣す。会長挨拶 山崎 倫子

一、会務報告及び事業報告 三好 美春 配布済みの資料にもとづいて報告あり

表彰 次期開催 東京 山崎 倫子 次々期開催 千葉 原案どおり可決

特別講演

「蘭学事始」より細菌学事始へ

人は考える 明日のこと、未来のことを考えるただ一種の動物人間は、エデンの園を開放された瞬間、我ら何処へ行くべきかを考え、何を喰べるべきかを考えはじめた。

ユースの人体解剖図フアブリカ(一五四三)は近代医学の原点である。同じ年にコペルニクスは地動説を発表し種子島の鉄砲伝来も同じ年のこと

通過してはいない。蔵志から解体新書へ、ベザリユーのフアブリカは入国していないが、ベザリユーのはるか後輩、パドヴァ大学教授ヴェスリンク解剖書のラテン語本を京都の山脇東洋は所持したらしい。

「原名 蘭学事始。警水先生去字字加東字。曰蘭東事始、之言蘭学東漸事始。健窃按、須以六字為名。否則不可解矣。」

顕微鏡初登場 解剖学者は注目しないが「顕微鏡視察」、文と図を見つめる。これより以前に中国には「顕微鏡」の字あり、わが国での「顕微鏡」、これより以前の存在を知らず。

十三年後の森島中良著「紅毛雑誌」に顕微鏡のラテン語と形態図あり、明らかに複式の顕微鏡である。「鏡は菌の形なり」と説きシラミの卵などを示す。

シーボルトより頂戴した顕微鏡は二宮敬作その他の伝記に見られる。シーボルトの鳴滝塾での青年教育の功績と日本紹介の大著述は特筆すべきものであるが、ここでは割愛して先きをいそぐ。

華岡青洲 チョーセンアサガオを主体とする麻酔薬処方とは既知のもの。青洲によって約二時間麻酔の間に大手術は完了。天才的手術技法と薬物品質管理の獨創性によると推察できる。あまりにも高級な名人芸のためか、その後継は間もなく消えた。

緒方洪庵と適塾 内塾生延べ六百三十七名の入門順名簿(姓名録)、今は日本学士院蔵、内一名だけ二重記載あり。適塾記念会は門人調べの業を今も熱心に進めている。

明治維新後の文明開化期の政治家と軍人の列に薩長の顔が並ぶ。文化人の列には適塾の顔が並ぶ。先頭は福澤諭吉、長興専齋以下が続く。安政四年(一八五七) コレラ大流行、長崎に招かれた蘭医ポンベは、最初の西洋式医学教育を医学伝習所

(後の精得館、長崎大学医学部前身)で開始した。適塾の塾頭福澤諭吉は江戸の中津藩主に招かれて築地の藩中屋敷(一八七年前、中津藩医前野良澤を盟主として解体新書を作製した同じ屋敷内)で蘭学塾を開いた。慶応義塾大学の原点と「蘭学事始」の原点とを記念する二つの碑は、調和のとれたみごとな風景である(聖路加国際病院の前)。

長興専齋 福澤の後の塾頭を三年間つとめた。江戸行き希望を緒方洪庵に話した時、「長崎でポンベより直接新式医学を修めよ」と諭され、医学伝習所に学ぶ。長興家は代々長崎に近い大村藩医であり、呼び戻されて藩医となる。勤皇佐幕の論争から内乱必至とみた長興は、蘭法軍陣医学修得の必要を上司に具申、若い医師数名を連れて精得館へ再入学して、謹直な蘭医マンズフェルトに師事した。間もなく予想通り内戦勃発、鳥羽伏見の戦で幕軍敗走の報を受けて、幕府役人に生命の危険迫り、マンズフェルトの計により精得館長らは上海に避難した。向学心の強い数十名の書生らは選挙して、長興を館長に推し、マンズフェルトは承認した。マンズフェルトと直接話せる、講義を通訳できる人物が長興以外にいたとは思えない。三年後長興は東京医学学校へ転任、因らずも参議岩倉具視を団長とする大使館団を、欧米への派遣計画案進行中……と知る。温厚な紳士医学者長興は自薦の猛運動を開始した。長崎で知り合っ

た長州の木戸孝允と伊藤博文らに会って、幸いにも使節団員となる。米國と欧州で二カ年に亘って医学教育・医療制度を調査して帰国。待っていたのが文部省衛生局長に就任、明治六年より二十四年まで続く。

マンズフェルト 明治四年より三年間、熊本古城医学学校において医学教育に当たり、北里柴三郎の異才を発見した。自宅に呼んで特別訓育、二年目には講義の通訳をさせた。卒業前に「東京に出てドイツ人教師のいる東京医学学校に入学せよ」とまで示唆は懇切を極めた。北里は正直にその通り進み、苦学力行、明治十六年卒業直前に、衛生行政の道を決意、三宅医学部長指示に従い内務省の長興衛生局長を訪ねた。共通の特別恩師マンズフェルトを語り合った情景を想像されたい。

結核菌発見 コッホの明治十五年三月二十四日ベルリンでの結核菌発見の講演は衝撃波のごとく地球上を駆けめぐった。長興衛生局長は、熱慮の上三人の若き英才に特別指令を与えた。

第一、ベッテンコーフェルについて衛生学を修めている緒方正規(当時助教授相当)に、「コッホ研究室に入り細菌学を学べし」と。

北里門下生 明治三十年の志賀潔の赤痢菌発見に続いて、秦佐八郎はエーリッヒのサルバルサン発明の偉大な共著者となる。野口英世は米國で活躍。北里の門下生らによる日本細菌学の基礎は美事である。

光学顕微鏡的細菌学の上に、今や分子生物学的細菌学の構築は進行中。どこまで伸びるか、限りなく進む。

各賞と研究助成授与者

吉岡弥生賞をいただいで



このたびは栄ある吉岡弥生賞をいただきました。まことにありがとうございます。

このたびは栄ある吉岡弥生賞をいただきました。まことにありがとうございます。

第二、ドイツ留学歴をもつ薬学者柴田承桂をベルリンの衛生博覧会に派遣、「緒方の協力のもとで細菌学研究用機械器具藥品等一式購入せよ」と。

第三、明治十八年一月開室予定の内務省衛生試験所細菌室において、「緒方について細菌学を学べ、しかる後ドイツ留学」と指示した。

細菌学事始 緒方正規の文を読むと、「明治十八年一月、東京大学医学部並びに内務省衛生試験所に細菌室を設置されて、其の両細菌室に於て細菌学上の検査及び研究をなし、就学者の指導をなせり。是恐らく本邦に於ける細菌室設置の嚆矢ならん……」と。大学では坪井次郎助手、衛生試験所では北里柴三郎がいた。ツァイス油浸レンズ付顕微鏡三台その他、必要器具藥品は完備していたと北里伝記に明記されている。十カ

月後、緒方正規の紹介状を持ってコッホ研究所に留学の旅に立った北里。水素ガスのもとで嫌気性菌培養既知の手法ではあるが、北里はこの方法で破傷風菌純培養に成功、破傷風毒素から抗毒素研究へと発展。ペーリングのジフテリアの研究と共著論文を発表。破傷風とジフテリア抗毒素血清による予防治療の基礎を確立した。

伝染病研究所建つ 明治二十五年六月、プロフェッショナル称号を受けて帰国した北里は、顕微鏡のある研究室を与えられなかった。長興の話を聞いた適塾の学友福澤諭吉は、芝公園の一角の私有地に小さい独立家屋を新築して北里の研究室とした。「伝染病研究所」の看板がかけられた。

北里のベスト菌発見業績 日清戦争開戦の直前、香港へスト流行調査

会員の消息

*森川みどり(愛知支部) 東京女子医専・昭和三年卒

昭和六十二年一月十五日、先生は「翠影」と題された自叙伝を刊行された。そのまえがきより転用すると、「医の道を今日まで続けてまいりました私の一刻の影を振り返り「女医六十年」と題した手記を中部経済新聞に連載(昭和五十八年十月一日より)していた

きました。中略「このたび再編集いたし、私の併号「翠女」から「翠影」と名付け上梓させて頂きました。後略」

その生い立ちより、学生時代、結婚、眼科医としての仕事、豊かな趣味、国際的な事業への参加……多岐に亘る活躍、そして、それに伴う多くの人々との触れ合いが綴られている。本著は非売品であるが、機を得て一読を乞う。

(文責・藤田)

吉岡弥生賞ありがとうございました



五月二十四日、日本女医学会総会から通知をいただき、大阪へまいり、女医学会の皆様にお目にかかって恐縮しながら、その女医第一号の先生の賞をいただきました。あらためて先生の伝記、渡辺淳一著「花埋み」を通読して先生の明治十八年に女医になられた時の苦心を知りました。そのころの女の高等教育は男女差のなほはだしかつたことは、吉岡先生が医学学校を作られたところの苦心談を承わっていただきましたのでよくわかります。明治六年に女医を志願して上京され、明治十八年まで前途に何の見通しのない所を、ただご自分の思いついた願をたよりに万難を排して、つぎつぎに障害をのり越えて、ついに初志を達せられました。しかし婦人科の診療をしても、男女差の平等を医療だけではできないと気づき、もっと社会的な活動をと願って矯風

荻野吟子賞をいただいで

豊島支部 香川 綾

会のメンバーとなられ、廢娼運動の中心人物として活動されました。後に結婚されて、北海の開拓運動に加わり、僻地医療や婦人教育につくされ、苦勞を重ねられ講演の帰途、雪中に倒れたこともあったとのこと。先生は内心に燃えるような理想を持ちつづけ、常にわが道をゆくといった確固たる人生を歩まれました。物質的にも名声にも動かされることがなく、常に理想と、純粋な希望を持ちつづけられた心のやさしい方であったようです。

私は大正十五年女子医専を卒業して、すぐ島内内科に入って、島内教授から栄養学の研究をすすめられ、それ以来六十二年一途にあゆみつけてきました。病氣の原因が栄養素のアンバランスや、欠乏や過剰によることから、実践がむづかしいのですが、実践栄養学を目標としています。科学として学部をつくり大学院で研究すること、料理としてその日常生活に普及することの間に、理解されないことが時々あって、苦しみます。しかし健康で長寿を目ざす、人々の幸に栄養科学が結びつかなけ

のために、北里所長と内科の青山胤通教授は、助手石神亨・宮本淑ら同行。青山と石神はペスト発病。本場に奇蹟的に助かる。「北里とエルザン」は、一八九四年香港において独立的にほぼ同時にペスト菌を発見」と国際的に承認される業績をのこす。第一回報告の英文和文とも立派であり、ドイツへ送った純培養菌を証拠と認めらる。北里の第二回報告は誤りであったために、一時期混乱があら

茨城支部 荷見ヒサ子

私はこれまでタンタンとした道を自分の思うままに歩いてまいりました。それは間違っていない道だったので、このような賞をいただいたのですから、総会の受賞のお礼の言葉として「吉岡弥生先生の薫陶の許に、女医になりました。そして女医になって一番よかったと思つたことは、それは結婚十年にして夫に死別九歳を頭に二歳までの五人の子供をのこされました。その子供たちを立派に育てることができたこと、でございます。そしてまた女医でよかったこと、それは地域社会へ医療で奉仕できたこと、昼夜を問わず患者

の身になって働きました。そのような母親の姿を見て子供たちは全員医師になりました。

吉岡弥生賞!! 私にとって最高のよろこびでございます。これを機に今はさらに老人医療福祉に情熱を傾けてまいりたいと思つています。ご推薦下さいました皆様にお礼を申し上げますと同時に、今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。と申し上げました。

私のこれまでの業績は子供を育てたこと、医院を病院にしたこと、これはまったく私的にすぎません。この私的の業績が社会福祉の第一歩となつたと思つています。自分の生き方に満ち足りたものを感じ、さらに余つた力で農村でみる地域の老人の生き方を見ているうちに、自分も含めた老人の今後をいうことを否応なく感じさせられました。

ねたきり老人、ボケ老人をかかえた家庭の苦悩、さらに崩壊、これらを考へて救えるのは女医がもつとも相應しい役目であると思つました。六十歳の時(最後の男の子が医大卒業した時)、私の第三の人生は始まると宣言しました。それは老人対策です。今日の私の抱負、それはこの水戸光園公の隠居西山荘の地に、老人の医療ゾーンをつくることです。

老人の急性・慢性疾患に対応でき安心して治療介護が受けられて長期短期を問わず満足して生活して生涯がとおれるような施設づくりをしたい、これが私の実現できるであら

野吟子先生のように、いつも燃えつづけたと思っています。

第七回学術研究助成を授与されたの感想

東海大学医学部内科講師 平松 和子



昭和六十二年の学術研究助成を私の研究「ヒトマクロファージによる酸化変性低比重リポ蛋白の代謝」に対して授与下さいましてありがとうございます。毎日、大病院で学生の教育、日常診療、研究活動に携わりながら、やはり私にとって一番幸福な瞬間というのは、研究助成が決定した、もしくは論文が海外の

はじめて総会に出席して

北海道支部 一戸 茂子

このたび、北海道支部評議員としての責任から、はからずも第三十二回定時総会にはじめて出席させていただきました。実際に参加し、日頃北辺にあつて送付されてくる日本女医会誌を手に入れていただけで、決して湧いてはこなかった感動を改めて覚えられました。この組織がすでに広く国際的にも血脈を通じながら、力づくよく活発に拍動している現状は、国際女医会に出席された諸先生のお話からもひしひしと伝えられ、「女医といわしむるものはなにか」など再びたしかめる機会をえた次第です。総会は司会の諸先生のてきわよい進行もあつて円滑に運ばれましたが、女医会誌でよくお名前を拝見してきた先生方を壇上に仰ぎつつお人柄にふれることができ、有意義な数時間を過しました。山崎会長、久保田副

吉岡弥生賞推せんについて

昭和六十三年吉岡弥生賞授賞の資格者を、本会理事または支部

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員。ロ 社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

日本女医会総会を大阪に迎えて

大阪6支部 野呂 幸枝

大阪城公園の木々の緑濃く、緩やかに流れる淀川(支流)に遊覧船が涼しげに走る五月二十四日第三十二回日本女医会総会が開催されました。今、高層ビルが建ち並ぶこの地は、戦争の傷跡もすさまじい荒地として長く残っていた地域でしたが、水と緑の空間都市計画によって、まちづくりが進み、今年完成に近い状態になりまして、ビジネスパークと呼ばれています。全国から先生方をお迎えするには適当な地と考えまして、評議員会と総会をこの地の中心にあるツイン21(地上三十八階)にきめました。交通の便に少々難点がありますが、この総会に出席してみても、わが日

野吟子先生のように、いつも燃えつづけたと思っています。

第七回学術研究助成を授与されたの感想

東海大学医学部内科講師 平松 和子



昭和六十二年の学術研究助成を私の研究「ヒトマクロファージによる酸化変性低比重リポ蛋白の代謝」に対して授与下さいましてありがとうございます。毎日、大病院で学生の教育、日常診療、研究活動に携わりながら、やはり私にとって一番幸福な瞬間というのは、研究助成が決定した、もしくは論文が海外の

吉岡弥生賞推せんについて

昭和六十三年吉岡弥生賞授賞の資格者を、本会理事または支部

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員。ロ 社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

かれた「日本近代医学の歩み」(講談社)を紹介致します。

講演が終わりました。記念写真の撮影が準備されました。二百何人が舞台に並んでの撮影は壮観でした。時間をかけた撮影の直後、六十センチ高い舞台が静かに沈み床と平面になりました。

二百何人の重さの舞台の動きに観声がありました。これがMIDシアターの誇る機能だったので。私たちの総会ではこの特殊機能が何の役にもたないと思っていました。

大阪支部の準備委員が考えに考えた運営でしたが、時間が遅れているので皆様方に大変ご迷惑をおかけいたしました。

会長先生のお言葉のあと私の心からの歓迎の言葉を述べましたが、ごく簡単にいたしました。おそぎの先生方にも淡路の人形浄瑠璃をご覧いただきたくてごさいます。

大阪の洗練された人形ではありませんが、文楽人形の原流だと承っています。その後で「おはつ」人形が皆様のテーブルを廻ってくれまして、拍手をうけました。

去年の十月に第三十二回日本女医会に関する第一回準備委員会が大阪OMMビルの一室に召集せられ、総会の前日に行なわれる観光旅行の世話をする人を誰かが推薦するように、と言ひ渡されました。私はそのように人を推薦することはできませんが、私自身が奈良方面の観光であれば、知り合いの寺も多く、料亭菊水楼もかねて心易くしているのでは、何とか案内ができるだろうと思われました。そうすることができれば、長い間た

奈良観光のお手伝いを了えて

大阪9支部 西田 富美

いへんお世話になつて日本女医会のために、少しでもお役に立つことができればいいかと考えて、私の所属する大阪第9支部の根来雅子班長や綾仁伸子副班長、杉本寛子先生等に相談をしました。ご賛同を得ましたので委員会へ申し入れました。その後先輩方に下見をいただき、その後先輩方に下見をいただき、一緒に作られたり、ご助言をいただき、多数の参加申し込みがあるように伺つて、うれしくごさいます。

独奏でなごやかな雰囲気会場に流れました。そのころにはお帰りになる先生方がありました。

大阪府医師会の先生方による楽団の演奏、明るい、楽しい曲に乗って踊る組も見られ、計画した私たちが嬉しくなりました。

最後は会員と関係の方たちの美しい歌声を聞くことができ、終わりに「赤とんぼ」、「菩提樹」を全員で合唱しました。

明石先生がご丁寧な挨拶を下さいましたので感激いたしました。盛沢山過ぎてゴタゴタした会になった感もありますが、皆様に大阪は楽しかったと思つてお帰りいただきたいとの熱意を私が整理できなかった結果とも存じています。お食事も召し上らず急ぎお帰りの先生方、どうぞおゆるし下さいませ。

総会前日の二十三日は雨でした。とくに霊山寺では強い雨だったとのこと。でも雨の奈良の自然の美しさ、国宝級の品々の拝観、個人では不可能な経験などを七十八名の先生方にお喜びいただきましたことは、お世話の方々のおかげだと申せましょう。

総会準備はまず大阪支部会員の増数運動からでした。いろいろな関係を通じて、「日本女医会とは何か」から説明しました。会員は努力の効果あり二倍になりました。会員の卒業大学は二十一になり、お若い先生が多くなりました。二百人という数は多いようですが、大阪在住の女医の数にくらべると少ないものです。しかし日本女医会を冷静に、熱心に見

ている人が増加したと認識しなくてはならないと思います。

準備委員の先生方もたびたびの集まりで意見を出し、いろいろな犠牲をはらって下さいました。皆様のお力を重ねて大阪総会が終了いたしました。皆様のご苦勞を感謝しています。

遠くから、近くからたくさん先生方が大阪にお越し下さいまして、ありがとうございました。いろいろなご迷惑をありがとうございました。どうぞお許し下さいまして、楽しかったことのみ、思い出のアルバムに残していただきますようお願いいたします。

準備委員一同、心からお礼申し上げます。

確保するために、うれしい悲鳴を挙げんばかりになって来ました。その時第7、第4支部の大勢の方々が応援して下さる事になり、悲鳴を挙げずに済みました。

人手が揃いましたので、なるべく手厚くおもてなしをするために、バスガイドを入れずに会員の車でご案内しようと考えて、その方々の参考にもと案内のパンフレットを作りました。

当日が近づいて来ました頃、それまではよいお天気が続いていましたし、私はかねがね外出を計画していましたら、それまでは曇ったり降ったりしていた空も、よいお天気になることが多うございました。それで、「私はお天気ばあだ」と思い込んでいて、天気のことばさっぱり気に掛けていませんでしたけれど、この頃から当日のお天気が気にかかり始めました。前日頃頃から雲行きが

やさしくなり、前夜半にはポツポツと雨がきこえるではありませんか。もうどうしようもない気持ちでございました。その朝は一時雨が止みましたが、それでも、テレビ放送の天気予報は悪いし、厚い雲を押し上げるすべもなく、空をにらんでいました。

そのような悪天候にもかかわらず、早朝から修学院離宮を見学せられていた東京方面からの一行が大勢で元気に西大寺に着きました。元気に西大寺に着きました。元気に西大寺に着きました。元気に西大寺に着きました。

第21回国際女医学会議予告

会期 昭和64年9月3日～8日

場所 韓国・ソウル

テーマ 各国における女子のがん罹患について

治療面を含めると、多くの地方が関連を持つ領域ですから、今から準備をされ、多数の会員の地方の参加発表がありますことを希望いたします。

(国際連絡書記 藤井)

つたりするそうです。お寺にも盛衰があるものですから唐招提寺の千手観音も時運が衰えていた時は、千切れたお手を近くの棧に釘で打ちつけられてあったり、離れたところでも結びつけてあったこともあるそうです。

唐招提寺の最大のお祭である五月十九日の梵網会には、白地にピンクの縁取りをして、長い柄をつけたハート型の団扇が、お餅といっしょに集った群衆の上から、バラ撒かれまが、この団扇をバスの中で皆様に配りましたところ、ずい分皆様のにお気に召したようでございます。

その図に乗った私はあらかじめ用意しておいた朱塗にすかし彫りをした骨を持ち、ひょうひょうとした天平模様を描いてある奈良扇子や、鹿や、三笠山や、藤等をすかしに入れ五色の奈良団扇等を、車中のつれづれをおなぐさめするつもりで目にかけてきましたところ、「買いたい」というお声がありました。ご希望者が多うございますので池田屋と奈良墨の本舖玄林堂も菊水樓へ呼びよせることに定まりました。

この頃バスは阪奈道路を過ぎて、富雄川に沿って雲山寺へ向かっています。この富雄川沿の道は、川上へ約8km行くと男山八幡宮に出ますので、京へは淀川沿いに近づいていきます。川下へいきますと、立田、法隆寺を経て高野山や熊野へ出ます。真西あたりの、これも約8kmくらいのところ浪速の港があり、暗い峠

あたりに生駒山脈を越えると雲山寺の辺りになります。このようなわけです。雲山寺で一休みをした学僧等は、京へ、奈良へ、高野山へと唐での成果を持って行き来したことでございましょう。富雄からこの道を約二十分上ったところに、高山という在所があります。この在所には、千利休が堺から茶釜を求めてしばしば訪れていた茶釜作りの家が二軒、今も営業をしています。ご承知のように、利久は堺の井戸水がお茶にもっともよいといわれて、堺に任んでいたのでございます。彼はまた好んで奈良ざらしをお茶巾として使いました。そのようなわけで、その後代々の宗匠がこの在所を訪れたそうです。今は残念ですが時間が都合で高山を訪れることができませんでしたが、聖武天皇の勅願寺であり、今から一二五〇年前に行基によって建てられた雲山寺に着きました。とりあえず空腹を満たしたいと、国宝の拝観やバラ園の散策をしていただきました。午後一時から、薬師如来を本尊とする国宝の本堂で、総会の成功と会員の健康、更に交通安全を祈願しておつとめをしていただきました。雨のために国宝を充分拝観していただくことはできませんでしたが、三重の塔の内部に残っている巨勢金剛等の極彩色の壁画は、法隆寺の壁画消失後の唯一の存在として大切に保管されているものでございます。

三万坪のバラ園では、ご一行を觀

迎えるかのように、今年初咲の色とりどりのバラが香よく咲きほこっていました。バラ園のコーナーでございました。バラ園のコーナーでございました。バラ園の花びらを乾燥して、輪切にしたものとオレンジの皮をあわせて紅茶に浮かべたものでございます。これが皆様のお口に合ったようで、四十名くらい収容可能なコーナーは、立ち飲みなされる方もあったくらいに、はち切れんばかりの大盛況でございました。

雲山寺出発の午後二時頃までは、雨も小降りでしたが、薬師寺に着いた時には、どしゃぶりになっていました。予定していた東塔を背景にした記念撮影もとることができませんでしたが、それでも裳階(もこし)や、びらびらかんざしのように、燈籠をたくさん尾根にぶら下げた東塔の美しい姿を、たぐいに見ることができました。この美しい東塔の姿を誰がどうして考えたのでしょうか、これは波に写った家屋がゆれ動いて長く伸び、屋根の広く写った部分や狭く写った部分等が美しい形を示したものを、建築物に型どって残したのが塔であるといわれています。その驚きの他ございません。

薬師寺の写経は昔から有名ですが、今なお写経教室が盛況でありまして、私どもの先輩木下貞子先生もその熱心なお一人でいらつしやいます。木下貞子先生のお世話で私も写経教室で講師から薬師寺の由来を聞き、写経についてもいねいにお教えい

ただきました。私もその時一巻求めて帰りましたので、近いうちに写経を済ませて薬師寺へ納めたいと考えています。

西大寺に着いた時はまた雨が小降りになっていました。中年太りの案内係のお坊様は、シャツにズボン姿で中庭に出て、私どもの到着を待っていて下さいました。このお坊様は大変ユーモラスな説明をなさるお方で、私どもを笑わせながら、本堂の仏様たちを私どもに紹介して下さいました。

続いて愛染堂で待望の大茶盛の接待を受けました。お手前さんは白の上衣に黒い袴を着け、小さい黄色い袷褌をつけ、剃刀で頭をつるつるに剃った、行儀のいい若い僧が三人墨染の衣の飯頭が一人、床飾のご説明があつて、綿を雪になぞらえての雪をのせたお社が一つ、白布で作った川が一つ、一本の松の木にも綿の雪がのせられてありました。私どもは何列にも並んで愛染堂いっぱいに坐っていました。

風呂の前に坐られたお手前さんは、風呂敷のように大きな袱紗を大きくに開いて、電気炊飯器かと思われるような、大きなお釜を扱われました。一方笠をかきかきしたかと思われ、大きな朱塗の菓器に紋菓をたくさんあなたも積むように盛って飯頭が運んで下さいました。私どもはお隣さんの手を借りながら取り廻しました。風呂釜の蓋を取られますと白い湯気がたつぷりとゴウノ

と音を立てて勢よく上りました。これはまた箒のように大きなお茶釜をサササッ、と音を立てながらお茶をたてて、「一椀が六人前です」と挨拶がありました。一風変わった大げさなお手前に、私どもは立ち上って拝見したり、ピカピカパチパチと大勢がシャッターを切っていました。やはりお茶碗は一人で持ち上げると落しそうで重いので、これもお隣さんのお手を拝借しなければなりません。両隣さんのお手を拝借した方もみられました。こんなに大量のお茶でありましたにもかかわらず、またずい分重なお茶釜であつたにもかかわらず、きれいに泡立っていて、香も豊かにおいしいお茶をいただくことができました。お代りまで供せられて、皆は満足そうな顔でございました。

この時に出来た大茶碗の一つが、今回私どもの奈良観光の記念品として元寮赤膚三さんに焼いていたいたお湯飲みと同じデザインであつたのは印象深くございました。

西大寺で結構な食前茶をいただいた。西の味で有名な奈良の菊水樓へいそぎました。

明々とした電燈に金屏風がよく映えて、濃緑地に銀色で小さい家紋を拵のように織り出し、継ぎ目なしのテーブルの上に黒塗、銀縁のお膳を置き、朱塗の八寸等、座敷の設定にも食器にも、よく行き届いていました。菊水樓では毎月異なった季節の酒を出しますが、今月は「菖蒲酒」

学術講演は二部屋で同時に進められたので山崎先生と分担して聴いた。ここには藤井が聴いたものの中から、各国の出題を、二題ずつ紹介する。イタリアは参加登録者は少なかったが、出題数は二十八に及んだ。おそろしく各自の業績になるためと考えられる。さすが米國は参加者二十九名に對し出題数十三であり、出題内容も多面的であつた。とくに、青年期特有な医学、社会、心理面における問題の解決策にまでふれた演題を五題提出していたのは、さすが……といいたい(次頁表参照)。

第二十回国際女医学会報告

国際連絡書記 藤井 儔子

主題、青年期——医学、心理、社会。對する七十九題(ブラズアルフA(当日追加あり)の演題を集めて、昭和六十二年四月二十六日から五月一日までイタリア・ソレントにおいて第二十回国際女医学会が開かれた。会長はカナダのDr.タンボリンである。参加者約四百名、その中、日本人は七十二名であった。開催国イタリアが登録者五十一名であったのは、医者の高い失業率を反映したものかもしれない。

開会式にも華やかさはみられなかつたが、壇上にならぶ主催国役員と招待者の机上に参加国の小旗が、各

国の若い参加者によって次々に並べられたのは印象的であつた。開会式で伊・英の同時通訳用イヤホンが遅く手渡されたり、出発点からお国柄がしのばれた会となった。会場に当てられたソレントパレスはホテルの地下一階、二階に大ホールと十数個の小ホールがあり会議の場としては申し分のないところであつたが、インフォメーションの悪さのため各国役員は指定された会議の部屋探しにふり回された感がある。また、能率の悪いコピー機がたつた一台しかなくて、必要書類が必要な時間に間に合わなかつたことが何回か起きた。

た社会環境によるものであると結論づけ、一題は避妊指導・性教育協会(イタリアに十三センターがある)の扱った青年期二百二十八例の分析から、性的経験は三九・四%が十五歳で、十六歳で二九・八%、十七歳二・二%、十八歳七・八%、中絶経験者一〇・九%、コンドーム使用二九・八%、ピル八・七%、性交後のピル使用四・四%、IUD一・三%、避妊手段を用いない者二四・五%。相手は同年齢友人というものが六八%であった。十代の若者の話であることを忘れそうであった。追加発言で、米国でも十代に避妊教育協会があること、英国ではボランティアによる助言センターがあつて不測の妊娠例を扱っていること、一九六三年に開演の病院を設立、年に新しいケースは二千例くらいあること、現在は産院でも相談を受けられるように法の改正があり、相談、教育も行なわれていること。

青年期の病理

(1)フイリピン——過去二十年前婦人科外来で扱った症例の疫学調査報告があつた。ホルモン異常による月経異常がもっとも多い、ついで卵巣腫瘍。腫瘍としてテルモイドチヌ五五・六%。漿液性囊胞三〇%、悪性腫瘍なし。先天奇形治療に関連した人工整形形成の方法に対し、ノルウェーのドクターが外科的手技を用いない造形が可能なることを紹介。(2)病理部門においてイタリアの報告が多く、眼科、皮膚科、内科等。イタリアの人口の九%が遺伝的近視であること、また、ホルモンレベルの変動が影響すると考えられている。変性角膜病変——角膜円錐、内皮症等を有する思春期患者の血中ホルモンを測定、男子の場合に女性ホルモン高値の例がありゴナドトロピンの下垂体のフイードバック機構による性ホルモン産生調節の変化が関与する可能性もありと。ミラノにおける十一歳の学童五三四一例の検査結果から五〇%がASO異常を示す。

第20回国際女医学会前登録者数と演題数(トピックス—青年期)

Table with columns for Country (参加国), Registration (登録人数), and Topics (演題数) categorized by Subject (生理, 心理, 病理, 社会, 予防). Rows list countries like Australia, Canada, etc.

*: キャンセル、**: Dr.Moraniの医学と芸術に関する特別講演

これは咽頭の連鎖球菌感染と正の相関を示す。リユーマチ熱〇・三四%、心内膜炎の発症〇・〇二%でリユーマチ熱の症例は減少しているが、成長期に心疾患の予防は必要であること。若年性高血圧症はすべて二次性であるといわれているが、本態性高血圧症が小児期に変動しやすい高血圧を示す型として発病しうる。十歳以下の七千八百名の学童の検査の結果小児の標準正常域を最高一四〇、最低九〇mmHgとして三・八%はそれ以上であった。高血圧と正の相関を持つ要因は子供でも体重である。(3)韓国——放射線診断学上からみた女性性器、付属器の疾患分析。(4)南アフリカ——十九歳の若者たちの現状に関する試験的アンケート調査。この国は人種差別紛争が長い間続いているが、少くも経済的に改善されている例として一九八二〜八三年の市警察の月間予算二〇九ドルが一九八五〜八六年に四九八ドルとなったこと。調査対象者は八カ国語を話す人種の集まりであること、現在の紛争に若者も関心を持ち、多くの者は平和的解決を望んでいる。その時期を二五年と予測する者が多いが十一年との答もあつた。若者の態度は十年間の闘争に親がいかにかかわってきたか、その影響が大きい(親が闘争に加わっていた場合は子供も激しい場合がある)。(5)イタリアからの症例報告として十七歳女子の胸腺腫、十二歳男子の

結腸の粘液腺癌等。粘液腺癌は成人の大腸癌では五%と少ないが若年者には多く、既報の百例は九〜十四歳であり、男子二対女子一の比、早期診断の難しさと悪性度の高いことから四〇%は一年以内死亡、五年生存例はわずかに五%。(6)ナイジェリア——西ナイジェリア・ラガン農村地区における保健医療の状況と教育状況について。調査対象は十〜十四歳六名、十五〜十九歳百六名、二十〜二十四歳四十五名、二十五〜二十九歳二十二名中、青年期に当る前者百二十名についてまとめた。六九・六%が男子(女子が少ない点については質問が出されたが、学校へ行く数の差である)。発熱経験者四二・三%、頭痛三九・一%、下痢一四・六%、鼻かぜ等二二・五%。治療は村にあるM.W.I.A.のプライマリーケア・クリニックで近代医学に基づく薬物(抗生物質、トランキライザー等)投与を受けた者一六・二%、昔からの民間療法によつた者一六・七%。来院は母親と一緒に六〇・二%、父親と三三・二%、その他は本人のみ。治療知識の情報源はラジオ三二・二%、他家族等から。近代医療利用経験者は四六%のみ。興味あることに頭痛には近代医学の薬を用、発熱等は民間療法が多い。麻疹が感染症であることを知っていた者が一九一名中たった一名であった等々。淋病予防のためにも性教育を普及させたいこと、自己流治療の危険性についての教育、村の地域と個

人の連携の必要性等について今後の方針を熱心に話を進めた。米国からの発言の中に、近頃のアメリカの青年は人から指示されることをきき、まず薬局に自分で薬を買いに行くこと、ミズリー州では貧困地域に週二回相談員の巡回があることが紹介された。(7)イタリア・ナポリで五十名の男子の食品アレルギー成因調査の結果、牛肉六四・一〇%、ブタ肉なし、その理由の一つとして牛乳を飲む事と関連があるかもしれないとのこと。(8)デンマーク——コペンハーゲンにある神経性食思不振症(AN)研究会の調査。とくに妊娠・出産との関係。四〜二十二年間初診から追跡調査して患者につき、改めて五年後に追跡調査可能であつた百四十名の女子についてまとめた。六十名は計百九人の子供を持つ。彼女等の大部分は妊娠前に完全にANから回復、十一名のみは妊娠、出産を通しAN症状を有していた。AN患者の流産・周産期胎児死亡率は一般女子より高い。出生児も小さい傾向。出生児の八七%は母乳により哺育。その子供たちの身体的理学的所見、精神発達には異常を認めない。(9)インド——一九七一年に提出された一九七二年四月から実施された優性保護法にもとづく妊娠中絶の現況インドにおける中絶許可理由は①医学的身体的、②障害者、③経済的。一九八二〜八六年ボンベイ産院にて扱つた六、五三四例、九四・二%は

結婚、五・五%は未婚者、この中一四・三%が青年期であつた。(付)日本からの出題三題中、藤井の分は唯一の動物実験成績で特別に発表を許可してくれたものである。他の二題、独協協大産婦人科・堀口文先生と同大、耳鼻科・新井幸子先生の口演内容は次号に掲載の予定である。

(付)総会決議事項

- 一、次々期開催国——立候補の米国(W싱턴D.C.)、ガテマラ、インドについて決選投票の結果がテマラに決定。二、次々期会長——立候補届けのあつた英国Dr.ウオード、ノルウェーDr.ストレインダセン、韓国Dr.チュウ(日本山崎先生は当日辞退)三名についても各国の理事による二回の投票結果が理事総数の三分の二に達せず、三回目の投票も考えられたが、最終的には二回目投票で一位となつたDr.チュウに決定。従来は日本からの五名の理事票は投票に際して一致していたが今回は意見の一致をみず、韓国三票、英国二票が流れた。三、西太平洋地区の副会長が、台湾とフイリピンより立候補していたため投票が行なわれ、台湾のDr.クアン選出。四、国際女医学会定款・細則の大幅な改正が検討された。英国Dr.コーナが数年間にわたる法律専門家との意見交換を行ない検討した最終

案が提出され、今会期中数回にわたる理事会で一つ一つ討議され、また改めて総会席上で討議され、理事・評議員の賛成有無により固まつた。最終的には、各国女医学会で検討後、次回韓国における総会で決定施行となる予定である。役員選出法が大きく改められる。五、各種委員会報告(主なもののみ)プロジェクト委——発展途上国の公衆衛生教育推進のため、臨床実習その他留学奨助費年五千ドル経常とす。募金委——恒例の催し物である各国持参の小品セールと、くじ引きのために売つた券の代金が四千七百ドル、スカラシッププログラムに韓国から千ドル、スイスから千スイスフラン寄付。

決議案——学術講演各セッションの座長から口演内容に関連した重要事項が総会に提案され決議されると実行に移されるのが通例であるが、本総会では、先進国では、すでに実行されている衛生、性教育推進に関するものなどとり上げられたり視野の相違が目立ち、新しいもの重要なものはなかった(提案されたものは開催国が纏める総会報告書に記載されるはずである)。六、その他・次々期国際会議トピックスは次期会議まで決定しないでおくこととなつた。医学領域の急速な進歩を考慮したものである。

地区分割案——西太平洋地区の会員は日本、台湾、韓国、フイリピン、オーストラリアであるが、国際女医学会実行委員会の意向により、交流をスムーズにするため、オーストラリア地域は別とする案が出されていた。日本においても理事会で検討し、交流のよし悪しは距離の問題ではないとの観点から現状維持の返事を送つてあつた。日本以外は分割賛成であつたが、同

第二十回国際女医学会旅行に参加して

江東支部 長田 智香

「帰れソレントへ」の歌で知られる、南イタリアの景観地・ソレントにおいて、第二十回国際女医学会が開催されました。日本女医学会からは七十名を越える会員が参加しました。会議に先立つ四月二十一日から、順次三つのグループに別れて日本を出発しました。先発の「オリエント急行・北イタリアコース」は、パリ・ミュンヘン・インスブルックを経てオリエント急行の優雅な旅を楽しむながら、イタリアに入り、ベニス・フイレンツェを観光後、ソレントに行く二十四名のグループでした。「イタリア古都めぐりコース」は総勢三十九名のもっとも人気の高いコースでした。私たちクラスメート五人組は会議出席コースの六人の先生方に合流させていただきました。成

田空港を正午に離陸した直行便は十四時間後、無事アムステルダム空港に着陸しました。夕方六時近い時刻にもかかわらず、太陽が燦爛と輝いていて、外国第一歩のアムステルダムは大変美しく、清潔な印象を受けました。ホテルで一泊後、翌朝ローマ空港に向いました。ここで会議出席前の短い期間を利用して、イタリア観光を満喫するため、別行動する私たちが山崎会長先生は大変温かく見送つて下さいました。大理石の町ローマは、歴史的遺跡が現在もそのまま息づいていました。スペイン広場、パンテオン、トレヴィイの泉、フォロ・ローマノ、コロッセオ、ナボナ広場、チルコ・マッシモ、等々、映画「ローマの休日」のヒロインになつたような気分でした。

聖ペトロ寺院の中のミケランジェロの「ピエタ」、聖ペテロの青銅像、秘蹟の礼拝堂、きらびやかなモザイク等、ルネッサンスの巨匠の作品に圧倒されました。迫害を受けて地下へ地下へと掘り進んだ結果、地下六階に四百万人あまりが埋葬されているというカタコンベ、ともに宗教の底知れぬ威力を感じました。十六世紀に川の水を集め、庭の中に下水道を通して作られたテイボリの噴水は、未だにその当時の設備によつて動いていました。ローマから飛行機で一時間ほど北上すると、水の都ベネツィアです。陸地を追われたベネツィア人が、秀れた知恵と商才によりアドリア海に一大商業都市を築いたことに、同じく資源の乏しい島国で育つた日本人として共感を覚えました。ナポリ、ポンペイの遺跡を巡り、ソレントに辿り着いた時は、「思春期」をテーマに各国代表が討議している真最中でした。国の経済の発展の差が思春期の問題点にも影響しているようでした。民族衣装をまとつての華やかな晩餐会を最後に五日間の会議の幕を閉じました。次回は一九八九年にソウルで開かれる予定です。アムステルダムのホテルオークラで日本女医学会最後の夕食会が催されました。歌ったり、踊ったりして大変楽しい会になりました。人生経験豊富な先輩の先生方に近しく接する機会を得て、大変勉強になりました。これからもぜひ参加させていただきます。

第一回のワークショップは、アンケート調査結果でもっとも希望の多かった「老化と疾患」をテーマにして検討をしている。

とき 昭和62年7月18日(土)
午後2時30分

ところ 東京女子医科大 臨床講堂2

演者 一人三十分の持ち時間後
まとめて質疑応答とし、
これから下記五名に講演依頼をする予定。

竹宮敏子(東女医)
神経系疾患を中心に
平敷淳子(群大)
画像診断を中心に
石橋悌子(日大)
感染症を中心に
香川 綾(女栄大)
栄養、食事療法を中心に
武内ゆみ子(東大)
循環器疾患を中心に

庶務部より
会議費(事) 八〇〇、〇〇〇円
旅費交通費(事) 一、七〇〇、〇〇〇円
俸給諸給諸手当 一、三五一、九〇〇円
法定福利費 一、〇〇〇、〇〇〇円
厚生福利費 一〇〇、〇〇〇円
会議費 一、五〇〇、〇〇〇円
旅費交通費 二〇〇、〇〇〇円

通信費 三、二七四、〇〇〇円
什器備品費 三〇〇、〇〇〇円
消耗品費 四二〇、〇〇〇円
印刷費 一、一〇五、〇〇〇円
管理費 五〇〇、〇〇〇円
光熱費 五〇〇、〇〇〇円
営繕費 二〇〇、〇〇〇円
弔慰・見舞費 五〇〇、〇〇〇円
顧問料 三三八、〇〇〇円
租税公課 三四〇、〇〇〇円
年金経費 五一〇、〇〇〇円
火災保険料 一三三、〇〇〇円
雑費 四〇〇、〇〇〇円

事業部
僻地診療助成 四〇〇、〇〇〇円
公衆衛生 三〇〇、〇〇〇円
支部助成 五〇〇、〇〇〇円
荻野吟子賞 一〇〇、〇〇〇円
女医の実態調査 二、五〇〇、〇〇〇円

学術部
講演研修費 一、〇〇〇、〇〇〇円
研究助成費 三〇〇、〇〇〇円
ワークショップ 五〇〇、〇〇〇円

渉外部
渉外費
広報部
機関紙
二、吉岡弥生賞規定について
荒川あや先生は終身委員であるので今までどおり委員として願う。

副会長(庶務担当) 久保田 明石、三好 庶務部

理事会議事録

日時 昭和62年3月28日
場所 日本女医学会 会議室
出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石、石原、佐野、白橋、橋本、平瀬、福永、藤井、丸山、三好、八木、石川、石津、稻生、井上、鶴川、大原、川口、小出、小暮、関口、二村、野中、野呂、橋川、藤田、山本、添田、西山、山口
欠席者(敬称略)
野沢、南雲、野本

委員会報告 山崎会長
一、吉岡弥生賞の審査結果授与者一名の決定発表あり
二、荻野吟子賞の選考結果授与者一名の決定発表あり
三、学術研究助成者の選考結果二名の決定発表あり
香川 綾(豊島支部)
平松和子(神奈川支部)
泉二登志子(東女医学内支部)

庶務報告 三好常任理事
2月28日 荻野吟子賞選考委員会、常任理事会開催
3月3日 会費長期滞納者に会費納入依頼発送(九十六名)

連絡事項
一、労働省より第十二回日本婦人問題会議開催要領あり
日時 昭和62年5月27日(水)

午前10時〜午後3時35分
場所 よみうりホール(東京)
主題 女性の能力や役割についての
の固定的な考えを見直そう

会計報告 石川理事
二月分 別紙どおり報告 承認
各部報告 井上理事
(広報部) 四月発行の編集を進めている。
(事業部) 白橋常任理事
・日本女医の実態調査報告書の表紙の色の決定。
・国際ソロプチミストより五月十五日の講演時間変更について連絡あり。

議事
一、昭和六十一年度一般会計収支現計書および昭和六十二年度予算案について
・昭和六十一年度一般会計収支現計書は、別紙二月末現在額と三月推定額について検討する。
・昭和六十二年度予算案について
渉外部 六〇〇、〇〇〇円
広報部 六〇〇、〇〇〇円
機関紙 二、八〇〇、〇〇〇円
学術部(訂正) 六〇〇、〇〇〇円
ワークショップ 六〇〇、〇〇〇円
庶務部(訂正) 一〇、九〇〇、〇〇〇円
俸給諸給諸手当 一〇、九〇〇、〇〇〇円
通信費 三、三〇〇、〇〇〇円
消耗品費 四五〇、〇〇〇円
印刷費 一、二〇〇、〇〇〇円

租税公課 三五〇、〇〇〇円
年金経費 五五〇、〇〇〇円
雑費 五〇〇、〇〇〇円
国際女医学会 一、一〇〇、〇〇〇円
雑費 一〇〇、〇〇〇円
名簿引当金 一〇〇、〇〇〇円
退職給付引当金 六〇〇、〇〇〇円
修繕積立金 五〇〇、〇〇〇円

とき 昭和62年7月18日(土)
午後2時30分

ところ 東京女子医科大 臨床講堂2

演者
テーマ 「老化と疾患」
竹宮敏子(東女医)
「老人性痴呆の臨床」
香川 綾(女栄大)
「高齢者の食生活」
平敷淳子(群大)
「画像診断を中心に」
石橋悌子(日大)
「加齢による感染と免疫について」
楠元雅子(東女医)
「老年における循環器疾患」

三、学術研修会について
とき 昭和62年11月22日(日)
午後3時

ところ 京王プラザホテル

演者 南谷幹夫(都立駒込病院)
庶務部と会計部で人事委員会を新設する。
五、吉岡弥生賞審査委員について

支部だより

目黒支部だより

目黒支部 浜田ナミ子

三月の第四土曜に目黒支部会を開きました。かねてから模索しておりましたが、なかなかチャンスが掴めずイライラの裡に月日は流れておりました。たまたま年度末に行なわれた目黒区医師会の理事選に、初出馬にかかわらず最高得点で当選された二女性理事のお祝いをかねて、全目黒区女医の親睦会という形で開きました。これは大先輩の荒井尚子先生の貴重なご意見によるもので、まさに先輩の意見と茄子の花...日本女医会員である、なにかかわりなく、ご案内いたしました。

ご多忙の中をおさしくり下さいまして十六名のご出席をいただきました。美人で有能多才な八木理事にご出席願えれば、本部の様子等も伺われ、非会員の方の関心も深まるのではと期待しておりましたが、あいにく本部でご会合の由残念でした。皆様和氣藹々腹臓のないお話しも何事かできました。支部会の内容は毎月第三火曜夜に行なわれている東京都支部連合会役員会での勉強の概略を報告いたしました。皆様にも少なからざるご関心を持たれたご様子で

三月の第四土曜に目黒支部会を開きました。かねてから模索しておりましたが、なかなかチャンスが掴めずイライラの裡に月日は流れておりました。たまたま年度末に行なわれた目黒区医師会の理事選に、初出馬にかかわらず最高得点で当選された二女性理事のお祝いをかねて、全目黒区女医の親睦会という形で開きました。これは大先輩の荒井尚子先生の貴重なご意見によるもので、まさに先輩の意見と茄子の花...日本女医会員である、なにかかわりなく、ご案内いたしました。

ご多忙の中をおさしくり下さいまして十六名のご出席をいただきました。美人で有能多才な八木理事にご出席願えれば、本部の様子等も伺われ、非会員の方の関心も深まるのではと期待しておりましたが、あいにく本部でご会合の由残念でした。皆様和氣藹々腹臓のないお話しも何事かできました。支部会の内容は毎月第三火曜夜に行なわれている東京都支部連合会役員会での勉強の概略を報告いたしました。皆様にも少なからざるご関心を持たれたご様子で

常任理事会議事録

日時 昭和62年2月28日
場所 日本女医学会 会議室
出席者(敬称略)
山崎、小俣、久保田、佐藤、明石、石原、佐野、白橋、橋本、平瀬、福永、藤井、丸山、三好、八木、欠席者(敬称略)
野沢

委員会報告 山崎会長
一、学術研究助成選考結果授与者二名の決定発表あり
二、荻野吟子賞選考結果授与者一名の決定発表あり
香川 綾(豊島支部)
庶務報告 三好常任理事
1月24日 理事会開催
1月27日 日本女医学会誌百九号
総会案内、総会出席
返信はがき、会費請求書を送付
2月7日 学術研究助成選考委員会開催

☆情報コーナー☆

IDF西太平洋コングレス・サテライトシンポジウム
テーマ インスリン療法の世界的发展と最新情報
講師陣 日本、韓国、英国、ベルギー、米国、オーストラリア
日時 昭和62年10月24日(出) 午後1時30分〜5時
場所 東京女子医大弥生記念講堂(八百席) 東京都新宿区河田町8の1

(注) 会費不要、同時通訳あり
世話人 東京女子医大糖尿病センター 所長 平田幸正
〒162 東京都新宿区河田町8の1
TEL(03)三三三二八二一(内線二七二七) して行きたい。

(学術部) 藤井常任理事
一、学術研修会開催について
講演会および懇親会
とき 昭和62年11月21日(土)
ところ 京王プラザホテル

①特別講演
演者 都立駒込病院 南谷幹夫先生
②吉岡弥生賞受賞者講演
演者 関 敦子
③懇親会
講演会終了後
以上のとおり予定しているが、これから演者や会場を交渉する。
二、ワークショップ開催について

荒川あや先生は退会されたが、終身委員につき今までどおり委員である。

六、その他

(1) 昭和六十二年役員会開催予定日について

別紙のとおり決定する。

報告事項

一、WHO専門委員として藪内英子先生(会員外)任命される。

二、四月四日、埼玉支部会へ山崎会長出席予定。

三、四月の理事会議題締切は四月六日とする。

四、四月十八日会計監査開催予定。以上

副会長(庶務担当) 久保田 庶務部 明石、三好

理事会議事録

日時 昭和62年4月18日 場所 日本女医会 会議室 出席者(敬称略)

山崎、久保田、明石、石原、佐野、白橋、野沢、橋本、平瀬、福永、藤井、丸山、三好、八木、石川、石津、稻生、井上、鶴川、大原、川口、小出、関口、野本、野呂、橋川、藤田、添田、西山、山口、欠席者(敬称略) 小俣、佐藤、小暮、南雲、二村、野中、山本

庶務報告 鶴川理事 3月28日・吉岡弥生賞審査委員会、理事会開催

4月14日・国際婦人連絡会全体会へ佐野常任理事出席

会計報告 稲生理事 三月分 別紙どおり報告 承認

各部報告 佐野常任理事 (渉外部) 二〇〇〇年に向けての婦人問題行動計画推進会議開催の案内について

とき 昭和62年5月25日 午前10時

ところ 読売ホール

(広報部) 小出理事 会誌百十号を四月二十五日に発送予定。

(学術部) 藤井常任理事 泉二登志子先生より学術研究助成授与の辞退あり 承認

・学術講演会について 南谷幹夫先生より講演の了承を得たが、演題については交渉中である。

議事

一、昭和六十一年度一般会計収支決算書および昭和六十二年度予算案について 別紙資料にもとづき検討する。

二、総会について 会務報告、議題、次第について別紙資料にもとづき検討し決定する。

三、次々期総会開催地について 千葉支部より後日支部会を開催し決定するとの連絡あり。

四、その他

(1) 会誌の紙質について アート紙を使用する。

(2) 国際女医会長に立候補推薦について 山崎会長より会長立候補辞退あり。

副会長(庶務担当) 久保田 庶務部 野沢、明石、三好

会員動静

評議員(敬称略) 品川支部 西川トシ 大阪6支部 小竹充子

予備評議員(敬称略) 品川支部 氏原多満子 大阪6支部 岡崎国恵

入会会員(敬称略) 埼玉支部 不破 晶 鈴木ハルエ 中内玲子 滝村かよ子 大東和子 源川千鶴子 養田芳子 譜久山民子

佐藤節子 荒川支部 城 則子 新宿支部 楠元雅子 中央支部 外山千エ 港支部 余 敏子 都下東支部 尹 美淑 長野支部 内坂由美子 関いづみ 大阪1支部 河野三千代 森野一枝 竹岡富美子 古形小百合 青木佳壽子

大阪2支部 大庭小枝子 大阪3支部 松下富美子 大阪4支部 川島恭子 山田正子 柴台キミ子 大阪5支部 井上節子 大阪6支部 勝田弘子 三宅圭子 福西睦子 美濃口智代 風呂内ヨシ子 大阪7支部 山中寿美子 神先芳江 大阪8支部 播野哲子 大國美智子 大阪9支部 池上信子 岡本シモ 大阪10支部 高橋怜子 建石保子

奥平美奈子 木村弘子 有光敬子 井上喜久子 萩原田鶴子 永井隆子 京都支部 中部瞭子 兵庫支部 福井郁子 広島支部 行武 民 升谷靖子 森永道子 中野富貴子 島根支部 吉岡令子 物故者会員(敬称略) 埼玉支部 前川淑子 杉並支部 中里玉子 三重支部 安井文子 大阪9支部 鈴木かほる

編集後記



今年五月の大阪での日本女医会総会は、和やかに、華々しく、楽しい総会でございました。皆様と一緒に大いに喜びたい事と存じます。広報部の八木常任理事の言により、会誌の紙質が良くなりました事は、すでに皆様がお気づきになって、読みやすいと、喜んで下さっていることと存じます。

会誌は会員の皆様の紙面です、皆様の交流の場として、ご遠慮なくなんでもご投稿下さい。広報部が悲鳴をあげるほどご投稿があつてこそ、より良い会誌ができると存じます。大阪での藤野先生の「蘭学事始」より細菌学事始へ、というお話しは

肩の凝らない一般常識として、会長のお札の言葉のように、会員も興味深く拝聴できました。今後会員の経験や、地方便利などで、リラクセスした会誌になりますよう、誰でも気楽に書き、気軽に読む、そんな会誌になりたいと考えています。(小出)

昭和62年7月20日 印刷 昭和62年7月25日 発行 編集人 八木 貞子 発行人 日本女医会 発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-17 青山宮野ビル 社団法人 日本女医会 TEL(498)〇五七- 制作 東京都文京区水道1-5-16(815)六六六一 株式会社 金剛出版